

多くの人たちにとって身近で何でも気軽に相談できる診療所です—



須川診療所ニュース



これってどういう検査？シリーズ

その③胃のバリウム検査



先日バリウム検査を受けました…

そうだ、放射線技師さんに聞いてみよう！

Q1. 飲むバリウムの量が他の病院よりも少ない？？

A1. 数多くの種類のバリウムの中から厳選し、現在のバリウムになりました。飲んでいただく量はヤクルトの半分程度の約40ccとなっています。ごく少量のバリウムでもきれいな写真が残せます。便秘症の方にも安心ですね。



Q2. バリウムを飲んだ後、台の上でグルグル回るのはなぜ？

A3. バリウムを胃の粘膜(壁)に十分に塗るためです。まんべんなく塗ることで病変の早期発見にもつながります。

Q3. バリウムが温かかったのはなぜ？

A2. アイスクリームを思い浮かべてください。冷たいと固く、温めると柔らかくなり溶けますよね。バリウムも冷たいままだと固くて飲みにくく、胃の粘膜に付着も悪くなります。



新型コロナウイルス感染症の流行でつい外出を避けがちですが胃の検査は大切な検査です。年1回の検査をおすすめします！

発熱外来の紹介

当院では発熱の症状がある方向けに「発熱外来」を行なっています。診療所の駐車場にあるプレハブにて行っています(下の写真の建物) 発熱外来の対象者は下記のようになっています。

発熱 37.5℃以上、あるいは平熱より 2℃程度上昇
咳、だるさ、息切れ、味覚障害、嗅覚障害…



発熱外来は**予約制**になっています。上記のような症状があれば**必ず診療所まで電話連絡をお願いします。**

また、お電話の際は現在の状態に加えて、どんな症状があるのかなどについても確認させていただきます。

日頃から自分の体調や体温を記録しておきましょう。

診療時間：月・水・金曜日

12:30~13:30 もしくは 14:30~15:30 の1時間

*状況に応じて変更する場合があります。



発熱外来専用
診察室



Dr中島に聞く！健康講座シリーズ⑦

イラストの「吉益東洞」は江戸時代中期に活躍した漢方医



腹診～おなかを診る～

漢方ではどの薬を処方するかを決定付ける**4つの診察方法**があります。かぜなど病気の初期の時は、身体の状態について聴いたり、舌を見たり、脈を診たり、汗をかいたりしていないかなど身体の表面の情報を中心に収集し、処方を決めることが多くなります。

しかし、病気や症状が続くときは、「**腹診**」という診察を行うようにしています。漢方では、病気が進行すると次第に身体の内部、内臓に影響が及んでいくと考え、**お腹は全身の状態、バランスをよく反映する**と考えます。お腹の緊張度合いや皮膚の乾燥具合、温度、しこりがないか、みぞおちのあたりを軽くたたいて音がしないかなど、手を触れたり、お腹を圧したりして観察します。

診察ベッドで横になり、おへそを中心にみぞおちからおへその下の範囲を出していただき、両手両足を伸ばした状態で診察します。そのため、漢方の診察を受ける際は**おなかを出しやすい服装**だとありがたいです。（ボディースーツやワンピースなどは避けてください）

『腹診の歴史』

『腹診』には長い伝統があります。古代中国で腹部の診察が行われていたことが『傷寒論（しょうかんろん）』や『金匱要略（きんきょうりやく）』といった書物にも書かれています。

ただ諸説あるようですが、儒教の影響で腹部に触れる事が憚られたことから、中国ではあまり発達しなかったとも言われています。日本では『腹診』が研究され、漢方診療の中でも重要視されています。

日本漢方の特色は腹診にあるとも言えます。

須川診療所 医師 中島 大



『漢方と西洋医学』

近年、病気を治すための選択肢は西洋医学だけでなく、漢方や鍼灸などに代表される伝統医学や補完代替医療なども健康のために利用されている方が増えています。

病気に対応する薬を選ぶ西洋医学とは異なり、**漢方医学は患者さんがどのような症状に悩んでいるかを見極め、治療方針を決定**します。

同じく伝統医学を積極的に取り入れている中国や台湾では中医学、韓国では韓医学と呼ばれ、伝統医学と西洋医学それぞれの医師制度が異なり、「中医学/韓医学はできるけど、西洋医学はできない」という場合があります。

一方、**日本では一人の医師が西洋医学と漢方医学の治療を同時に行うことができます。**東西両医学の治療を患者さんに対して実践できるのも日本の特徴です。これをうけて、現日本東洋医学会会長の伊藤隆先生は「**日本の漢方医療は世界の最先端にある**」と話されています。

漢方医療と西洋医療のイイトコドリをして困っている症状を治療してみたいはかがでしょう。